経済史概論Ⅰ

科目ナンバリング　ECH-101
選択必修　　2単位

粟倉　大輔

1. 授業の概要（ねらい）

経済史とは、経済生活（人間の生存・発展に関わる基礎的な活動）の歴史である。この経済生活とは、世界のどの地域でも、またどの時代においても、人間にとって必要不可欠なものといえよう。この流れをたどっていくことは、現代の経済システムが構築されてきたものを振り返り理解することでもある。以上の点を踏まえて、本講義では、16世紀から19世紀にかけての経済史を取り上げる。また、経済活動の背景にあった政治的・社会的な動きはもちろんのこと、従来の経済史では取り上げられることが少なかった非西欧世界（アフリカやラテン・アメリカなど）の状況・動向や、ジェンダーの視点も加味していく。

2. 授業の到達目標

①パックス・ブリタニカが形成される19世紀までの歴史的事象および経済の動きについて把握し、かつそれについて説明できるようになること。
②現代の世界経済（および日本経済）をめぐる諸問題についても考察する力を養うこと。
③歴史は単なる過去の事象ではなく、現代に生きる我々に関係しているものであると認識すること。

3. 成績評価の方法および基準

授業期間内に行う小テスト（2回を予定）：20%
最終試験：80%

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは用いない。
参考文献
水島司　グローバル・ヒストリー入門（世界史リブレット127）　山川出版社、2010年
金井雄一・中西聡・福澤直樹編　世界経済の歴史　名古屋大学出版会、2010年
杉山伸也　グローバル経済史入門（岩波新書1512）　岩波書店、2014年
水島司・島田竜登　グローバル経済史　放送大学教育振興会、2018年

5. 準備学修の内容

こちらで作成するレジュメをもとに授業を進める。内容は時系列で進んでいくので、内容の復習は必須である。また、毎回のレジュメには特に内容に関係する5～7個ほどのキーワードを設定するので、その意味するところをしっかり理解・復習しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

高校卒業時点での日本史および世界史の知識が必須となる。それを前提に授業を進めていくので、そのことを踏まえて受講を判断すること。また、「西洋経済史」・「アジア経済史」・「西洋史概説」・「東洋史概説」などについても今後履修しておくことが望ましい。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション：経済史概論Ⅰの課題
【第2回】　グローバル経済史とアジア
【第3回】　アジア域内交易
【第4回】　ヨーロッパのアジア進出
【第5回】　環大西洋経済の形成
【第6回】　明・清時代の政治と経済
【第7回】　徳川日本の「鎖国」政策と経済成長
【第8回】　ムガル帝国期のインド経済
【第9回】　イギリス東インド会社の設立とアジア三角貿易
【第10回】　イギリス東インド会社の終焉とインド植民地化
【第11回】　イギリス産業革命
【第12回】　「パックス・ブリタニカ」の時代
【第13回】　ドイツとアメリカの工業化
【第14回】　帝国主義の時代
【第15回】　全体のまとめ